

—最新医学講座—

オープンカレッジのご案内 (第1期)

今日、科学技術は大きく進歩し、私たちはその恩恵に浴しています。科学の進歩は日進月歩であり、かつて学んだ知識は古く役立たないものがあります。また、身の回りには多くの情報が氾濫して、どれをどう自分の生活に活かしていくべきか、戸惑うことが多々あります。

本オープンカレッジでは、本学の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を、市民の皆様には、わかりやすく解説いたします。皆様には、自己研鑽と再学習の場としてとらえ、日々の生活を実りあるものに、また、将来の生活設計のために役立てていただければ幸いです。

開講科目: 科目名「認知症のすべて—臨床症状、神経病理、予防・治療薬開発の最前線、精神症状から介護まで」
と期間 平成26年6月6日(金)～平成26年7月25日(金) 時間は18:30～20:00の90分授業で週1回、全8回で構成。受講者は原則として8回を通して受講をお願いします。

募集定員: 80人

受講料: 8,000円 開講初日にお支払いいただきます。

募集対象: 教育・保育・福祉関係者、医療関係者、行政自治体関係者、企業関係者等幅広い社会人及び一般市民(学生・大学院生の聴講可)

応募受付期間: 平成26年4月28日(月)～5月16日(金)

応募方法: 往復はがき または e-メール

応募申込記入事項:

(往復はがきの往信の表裏)

<input type="checkbox"/>	1 6 7 8 6 0 1
名古屋市立大学 オープンカレッジ 担当宛	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

1 応募科目名
2 氏名(ふりがな)年齢
3 住所・電話番号
4 (e-メールアドレス)
5 職業
6 応募の動機
7 緊急連絡先 (平日の昼間に連絡をとる場合の連絡先をご記入下さい)
8 本講座の情報入手先 (初めて本講座を受講される方のみご記入ください) 例: 広報をこや、知の広場、知人の紹介、ホームページ、パンフレット等

(返信の表裏)

<input type="checkbox"/>	□□□□□□□□
下さい。	あなたのご住所 氏名をご記入
(何も記入しないで下さい。)	

e-メール宛先

igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp

(上記はがきと同様に応募申込事項をご記入ください。)

選考方法: 応募人数が定員を超えた場合は、応募動機による選考のうえ、抽選とすることがあります。

選考結果: 平成26年5月23日(金)までにお知らせします。

問い合わせ先: 名古屋市立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当

467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 tel:052-853-8077

ホームページアドレス: <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/index.html>

※お寄せいただいた情報は、個人情報保護の観点から外部流出などがないように厳正に管理します。また、当該目的以外には、使用いたしません。

**科目名「認知症のすべて—臨床症状、神経病理、予防・治療薬
開発の最前線、精神症状から介護まで」**

**コーディネーター 医学研究科 病態生化学分野
教授 道川 誠**

認知症患者数は462万人、その予備群が400万人とも推定されており、その大部分をアルツハイマー病が占めると考えられますが、認知症・アルツハイマー病はとて身近な疾患になってきております。しかし、いまだに認知症は一般市民に正しく理解されているとはいえません。認知症・アルツハイマー病を正しく理解し、予防法、治療法開発の現状を知っておくことは、超高齢社会を生きる私たちにとって必要なことと考え、それぞれの専門家に講師をお願いし、全8回で認知症のすべてを知っていただくことを企画しました。

6月6日(金) 総論—危険因子—予防

道川 誠(医学研究科 病態生化学 教授)

超高齢社会に突入した我が国では、誰もが認知症になる可能性があります。当講義では、認知症を来す代表的疾患であるアルツハイマー病について、その疫学、原因遺伝子の発見、危険因子の発見の歴史等を概説し、基礎研究の概略を解説するとともに、それを基盤にした治療・予防法の開発研究の現状と未来について研究の側面から解説します。

6月13日(金) 臨床—診断・治療

松川 則之(医学研究科 神経内科学 教授)

大きな社会問題となっている認知症の内訳は、約60%がアルツハイマー病です。ついで、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、そして若年性認知症として問題になる前頭側頭型認知症があります。また、治療可能な慢性硬膜下血腫、ビタミン欠乏症などが認知症の原因になります。本講義では、各疾患の臨床的特徴・診断と予防・治療法について概説致します。

6月20日(金) 臨床—抗体療法

松原 悦朗(大分大学 医学部 神経内科学 教授)

認知症は、「治る」認知症と、「治したい」認知症に分けられます。「治る認知症」が存在するなんて驚きかもしれませんが、正確には「予防する」「早めに手をうつ」ことで「先を制する」治療の対象となる認知症です。「治したい」認知症(アルツハイマー病など)にもこの考えが定着しつつあります。

6月27日(金) 他の認知症、病理

赤津 裕康(医学研究科 地域医療教育学 特任教授)

認知症にはアルツハイマー病以外にも多くの疾患が存在します。臨床的にアルツハイマー病だと思われていても異なった疾患であることが神経病理学的に確認されることは良くあります。今後開発される治療法を的確なものにする前提として診断法の確立が重要です。治せる認知症から一般にはあまり知られていない認知症を含めて最先端の診断法も織り交ぜながらお話いたします。

7月4日(金) 歯科疾患と認知症

松下 健二(国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部 部長)

近年、認知症の発症や増悪要因の特定に向けた研究が世界中で行なわれており、可能性の高い要因候補も数多く提示されています。認知症の発症と増悪には単独の要因だけでなく、中年期以降の体に起る様々な現象や変化が複合的に作用していることも解明されつつあります。本講義では、その要因の一つとして口腔疾患を取り上げ、それらと認知症との関連性について概説したいと思います。

7月11日(金) 薬剤と認知症

木村 和哲(医学研究科 臨床薬剤学 教授)

2010年までは、抗認知症薬として販売されていた薬剤は、コリンエステラーゼ阻害薬であるドネペジルだけでしたが、2011年に新しく3剤が製造承認を受け4剤になりました。患者さんの数が多い病気なのに4種類しか薬がないのはなぜでしょうか。これまでの認知症治療薬の歴史を振り返ってその謎を解いていきます。また、現在、治療に使われている4種類の薬それぞれについて、その特徴や使い方、副作用や注意点を詳しく解説いたします。さらに、今後の認知症治療の新たな一手となる新薬の開発状況もわかりやすくご紹介いたします。

7月18日(金) 認知症高齢者の理解とケア

淵田 英津子(看護学部 講師)

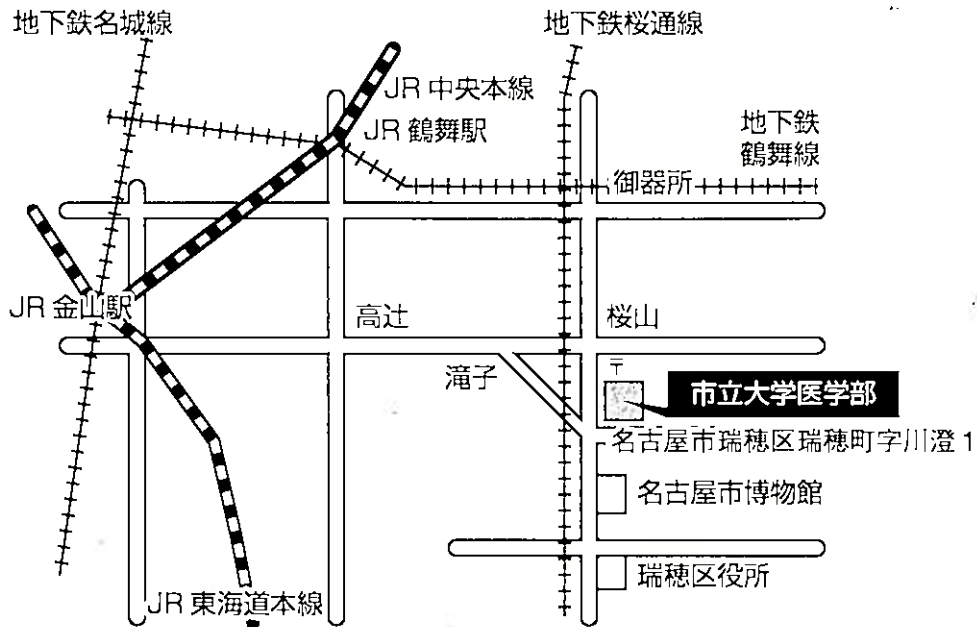
認知症高齢者の中核症状、行動・心理症状(BPSD)の特徴、それらに対する有効なケアについて、看護の視点から国内外の先行研究や具体的な場面を用いて概説します。そして、認知症高齢者の症状に合った有効なケアを実践するための基礎知識の修得を目指します。

7月25日(金) 名古屋市の認知症施策

小杉 政巳(名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課 課長)

認知症に関する現状と動向、名古屋市の認知症施策の現状と今後の方向性等についてご説明いたします。

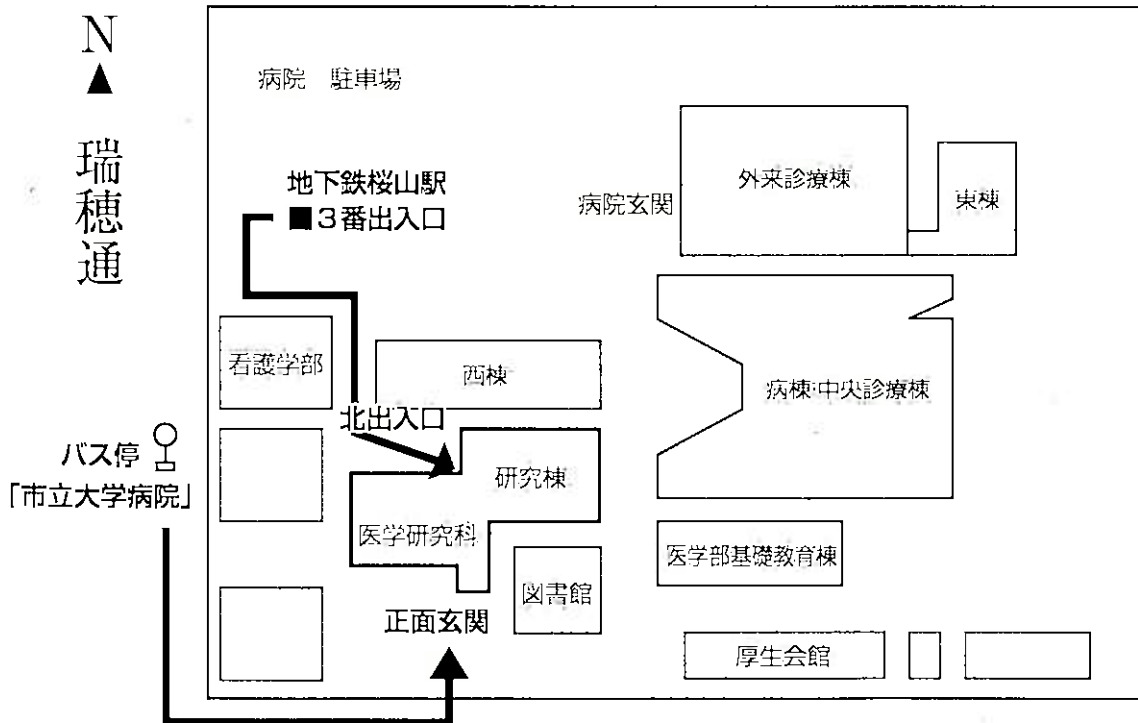
オープンカレッジ会場 案内図



〔交通機関〕

金山駅から市バス「市立大学病院」下車、または名古屋駅から地下鉄桜通線「桜山」下車

注：お車でのご来場はご遠慮ください



医学研究科研究棟 11階 講義室 A

医学研究科研究棟は、北出入口(地下鉄3番出入口から来られるとき)または正面玄関から入って、1階ロビーよりエレベータで11階へお上がりください